



第17回例会報告 *通算例会回数4118回目* (11月24日 於 今治商工会議所2階 大会議室)

【 出 席 報 告 】

・会員数 55名 ・出席数 27名 ・欠席数 28名
 ・当日出席率 50.00% ・前々回修正出席率 100%
 <欠席会員> 青野(淳)、安藤、藤田、原、平尾、平田、廣川、神道、菅、片山、小堀、近藤、楠橋、水沼、宮道、岡本
 重松、田崎、辰巳、渡邊、八木(正)、八木(真)、八木(伸)、矢野
 [免除会員] 檜垣(巧)、冠、村上、山本
 <11/10 欠席補填>(11/2 伊予)重松 (11/7 今治北)青野(淳)、平田、廣川、板脇、神道、木村、小堀、河野、楠橋、宮道
 岡本、坂本、辰巳、渡辺仁、八木(正)、八木(真)、矢野

◇会長報告・11月18日(金)大阪RC創立100周年記念式典に会長幹事で出席しました。

外部卓話

◆高知南ロータリークラブ 戸田 明氏(第2670地区 公共イメージ向上委員会 DEI)

<高知南RC…グローバル補助金を利用し、高知大学医学部と連携、2018年からブラジルの医療支援に乗り出している。具体的には高知大学を中心とする医師数人を合計4回派遣。内視鏡による早期胃がんの発見と治療、腹腔鏡手術を地元のベテラン、中堅の医師に実際に見てもらい、研修を重ねてもらっている。ただここ2年はコロナ禍もあり中止となっている。>

『カンボジアにおける乳癌検診推進プロジェクト』

なぜ乳癌検診の研修を提供するのか…①適切に診断と治療が行える医師がいなければ、病院の設備投資ができないので、市民の健康が守られない為。②カンボジアの病院から提出された乳癌として診断・手術されたマンモグラフィ画像100枚が全て良性でした。正しく診断、必要があれば二次診断を行い、確定診断後に切除を行うストラテジーを浸透させることが必要であった為です。



カンボジアの医療事情と乳癌検診の課題…カンボジアでは検診文化が根付いてなく、乳癌は比較的若年で発症するため、若年人口の多いカンボジアでは最も注力すべき癌腫の一つです。▼カンボジアでの従来の乳癌治療は、マンモグラフィーを施行、腫瘍があれば乳房全摘後病理検査をする。日本では組織を生検し、悪性所見があれば手術を行うが、カンボジアでは生検できる医師が少ない。また生検できても病理医が極めて少ないのが問題であります。

研修事業内容…100人のマンモグラフィーを撮影(一次読影は、カンボジア人放射線科医。二次読影は、現地在住のアメリカ人の医師と日本人医師による遠隔読影。)>カンボジア人放射線科医の読影能力の向上につなげます。

また、マンモグラフィーで要精査となった場合は超音波下穿刺細胞吸引(US guide FNA)での細胞診→実地トレーニングを複数回実施します。▼病理診断の一次診断は、カンボジア人病理医。二次診断は、現地在住のアメリカ人の医師と日本の病理医による遠隔診断のダブルチェックを行います。

安心できる医療の確立を目指すために…①健康保険制度はあるので、医療環境を整備する。②乳癌検診を受けても正しく判定できる医師がいらない→日本の医師による遠隔診断の実施やAIによるマンモグラフィ画像解析による診断を整備する。③マンモグラフィ検診の機会がないので、マンモ検診車を導入しカンボジア国内で展開していく。④異常があった場合の再検査を行う場所がないので、乳腺エコー・生検の行える施設を整備していく。

最後に…国際ロータリーHPにも、『病気は何もせずに予防できるものではありません。命にかかわる病気の蔓延を食い止め、予防を徹底させるために、私たちロータリー会員は、病気や衛生習慣に関する市民の指導など世界で毎日、数百ものプロジェクトを実施しています。』とあります。▼第2670地区女性ロータリアンのネットワークによるカンボジアの乳癌検診研修プロジェクトとして私たちはなにかアクションを起こせないでしょうか？

☆例会中に視聴した動画…『世界の子どもたちをポリオから救う—国際ロータリーが目指す未来—』は第2670地区ガバナー事務所HPより閲覧出来ます。

<ゲスト>高知南RC 戸田 明様

次 回 例 会(12月1日)

【 年次総会・職業分類委員会アワー 】

- <会員誕生日祝> 佐々木達耶氏 (12/4)
- <配偶者誕生日祝> 坂本 考弘氏 (12/7)
- <入会記念日祝> 久米 操氏 (12/2)

〔 俵屋 〕

※お弁当個数事前連絡の為、例会出欠連絡は前日16時までご連絡をよろしくお願いいたします。

— 12月サイン —

- 12/13(火)…今治南RC
- 12/26(月)…今治北RC
- 12/27(火)…今治南RC